

筑波大学社会・国際学群国際総合学類

卒業論文

高校長期海外留学経験がキャリア形成に与  
える影響

2023 年 1 月

氏 名：門田美柚  
学籍番号：201710400  
指導教員：関根久雄

## 目次

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| 第1章 序論 .....                             | 4  |
| 1. 研究目的.....                             | 4  |
| 2. 研究方法.....                             | 7  |
| 第2章 グローバル人材育成の定義と施策 .....                | 8  |
| 1. グローバル人材の定義 .....                      | 8  |
| 2. グローバル人材育成の基本施策.....                   | 9  |
| 第3章 グローバル人材育成で語られる留学について .....           | 11 |
| 1. 留学の概要 .....                           | 11 |
| 2. 日本における留学事情 .....                      | 12 |
| 第4章 留学経験がキャリア形成に与える影響 .....              | 16 |
| 1. 留学経験がキャリア形成に与える影響についての先行研究.....       | 16 |
| (1) 大学海外留学とその後のキャリア形成 .....              | 16 |
| (2) 高校短期海外留学とその後のキャリア形成①.....            | 18 |
| (3) 高校短期海外留学とその後のキャリア形成②.....            | 19 |
| 2. 先行研究の結果について .....                     | 20 |
| 第5章 高校長期海外留学経験がキャリア形成に与える影響についての調査 ..... | 22 |
| 1. 研究の目的 .....                           | 22 |
| 2. 研究方法.....                             | 22 |
| (1) 対象者 .....                            | 22 |
| (2) 調査の実施時期 .....                        | 23 |
| (3) インタビューの構成 .....                      | 23 |

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 3. インタビュー調査の結果.....                | 24 |
| 4. 高校長期海外留学がキャリア形成にもたらす影響について..... | 41 |
| 第6章 結論 .....                       | 44 |
| 1. 本論文の結論.....                     | 44 |
| 2. 問題点と今後の課題.....                  | 45 |
| 参考文献 .....                         | 46 |
| 英文要約 .....                         | 49 |
| 謝辞 .....                           | 51 |

## 図目次

|     |                  |    |
|-----|------------------|----|
| 図 1 | 大学生の留学生数の推移..... | 4  |
| 図 2 | 高校生の留学者数の推移..... | 14 |
| 図 3 | 留学のキャリアへの影響..... | 18 |

# 第1章 序論

## 1. 研究目的

情報化やグローバル化の急速な進展が見られる今日の日本社会においては、社会の在り方自体が大きく変化している。技術革新の結果として誕生した人工知能（AI）は、人間に変わって知的活動を行うことが可能であり、すでに人間の代用として社会のあらゆる場面で幅広く導入され、活用されている。また、あらゆるモノがインターネット経由で働く IoT（Internet of Things）の広がりや、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society5.0）<sup>(1)</sup>」の到来によって、今後も凄まじいスピードで社会が大きく変化していくことがすでに予測されている。それと同時に、情報化の急速な進展を受けてグローバル化もより広範囲に急速に進展しており、地球規模での相互連結性、相互依存性がこれまで以上に高まってきている。このように変化の多い社会に生きるのが私たちであり、私たちには、情報化やグローバル化の進展がもたらす社会的変化に対し、主体的に、そして自律的に生きることが求められている。その中でもとくに、今後の社会を担っていく存在である子どもたちには、変化が多く、予測不可能な未来を生き抜く力がより一層求められているのである。彼らが、国境を超えて流通する情報へのアクセスや情報活用能力、異文化間での外国語によるコミュニケーション能力を獲得し、今日の情報化社会、グローバル化社会を主体的に、自律的に生き抜き、よりよい国際社会の形成に貢献できるようにすることが現代社会の大きな課題とも言える。

このように急速に進展する時代の変化を背景に、日本の学校教育の在り方が再考されていることは言うまでもない。日本の教育方針を定める文部科学省では、初等中等教育分野、高等教育分野、国際教育協力分野、またその他の個別の分野におけるグローバル化への対応や国際化について、中央教育審議会を初めとするさまざまな場で議論が行われてきた<sup>(2)</sup>。平成 26 年 11 月には文部科学大臣のもとに、新しい時代にふさわしい学習指導要領の在り方について中央教育審議会に諮問が行われ、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において、学習指導要領の改善が求められている。その結果として文部科学省は、平成 29 年 3 月 31 日に幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領を、同年 4 月 28 日に特別支援学校幼稚園教育要領及び小学部・中学部学習指導要領を公示しており、加えて平成 30 年 3 月 30 日には高等学校指導要領を公示した〔文部科学省 2018:1-2〕。その中でも、急速

に進展するグローバル化に対応した学校教育環境の整備として、小学校中学年（3・4年生）における外国語活動や、小学校高学年（5・6年）における教科としての外国語の導入、また中学校・高等学校における外国語教育の改善・充実が組み込まれたことは注目に値する<sup>(3)</sup>。加えて文部科学省では「高校生の海外留学」の促進に一層の力を入れており、平成30年6月15日に中央教育審議会にて閣議決定された第3期教育振興基本計画においては、グローバル化に対応するためとして、「令和4年度に日本人高校生の海外留学生6万人」という数値目標を掲げている〔文部科学省 2018:61〕。そして、実際に令和4年度には、「社会総がかりで行う高校生国際交流促進事業」を立ち上げ、派遣事業としての「国費高校生留学促進事業」、受け入れ事業としての「異文化理解ステップアップ事業」、留学環境整備としての「国際交流・留学整備事業」の主要3事業に約1億3800万円の予算を立てた<sup>(4)</sup>。文部科学省は、「グローバル化が加速する社会経済にあって、豊かなコミュニケーション能力や異文化体験を有し、我が国や国際社会において活躍できる『グローバル人材』を育成する上で、高校生の海外留学の推進を図ることは重要<sup>(5)</sup>」とする声明を出しており、グローバル化に対応できる人材育成の一環として後期中等教育課程に位置する高校生の留学生交流・国際交流を推進するための取り組みを積極的に行っている。

実は筆者自身、グローバル化に対応できる人材育成の一環として推進される高校生の海外留学に関して、地元広島県の自治体から一部金銭的な援助を頂いて、日本の県立高等学校在学時にアメリカ合衆国へ10ヵ月間の交換留学を行った経験をもつ。18歳や22歳に進路選択を重々しく求める日本社会と、大学入試合格という目標に向けてひたすら勉強する日本の高校生活に窮屈さを感じ、もっと広い世界に出たい、異なる価値観や考え方をもつ人々ともっと交流したいという思いから、高校生の交換留学を促進するYFU（Youth For Understanding）という組織へ自ら申し込んで実現した海外留学であった。実際に現地でYFUの提供するボランティアのホストファミリーと生活を共にし、現地の高等学校へ通う10ヵ月間の滞在を通して、外国語学習や異文化交流などから、進路選択や価値観の面において、その後のキャリアの方向性や人生観を大きく変えるような価値ある経験や学びを得ることができたと振り返る。日本の公立高校での学校生活では手にすることができないような経験や学びを得たという実感があるため、筆者自信、グローバル人材育成の一環として、多くの子どもたちが進路選択を求められる前段階での海外留学、とりわけ長期間（6ヵ月～1年間以上）の高校海外留学は、新たな経験や学びをただ思い出に留めるのみならず、習得した語学力を活かして、異文化や異質なものと向き合い、コミュニケーションを図ることで目の前の課題を解決していくなどの、高等学校の教育課程全体を通して育成したいとされる資

質を身に付け、自分のキャリア形成をより広い視野から改めて捉えなおすチャンスになるという点で非常にメリットが大きいと考えている。またそのため、文部科学省が掲げる高校生の海外留学に対する目標は、実現に繋がれば、日本人でありながらグローバル人材として世界を舞台に活躍できる人々を創造するという面で非常に価値のあるものだと思えている。しかしながらその一方で、現状に目を向けると、日本の高校生の中で海外留学を経験する、またはできる者は一握りにしか及んでいないのが実情である。高校長期海外留学となると、その後の進路選択やキャリア形成についての不安も伴い、海外留学への志を持った高校生の中でさえ躊躇してしまうのではないかと感じる。高校生にとっては現実的でない選択肢と捉えられるせいか、大学生や社会人の長期海外留学経験後がキャリア形成に与える影響について調査したデータは先行研究にてすでに存在するのに比べ、長期間の高校海外留学の成果を、その留学後の「キャリア形成」に焦点を当てて図った研究はほぼないに等しいのが現状である。その点について新見は、「海外留学が人々の進路や職業選択に与える影響に焦点をあてた調査は不足している」[新見 2015:32]と述べており、さらに高校生の短期海外留学経験がキャリア形成に与える影響について研究した石森・西尾は、「高校生の多様な留学経験を対象とした研究だけでなく、高校生の留学経験自体を対象とした研究自体がほとんど行われておらず、研究の知見は蓄積されていないのが現状である」と指摘した上で、「高校生を対象とした研究はわずかにしか存在していないが、大学生対象にした海外留学経験の効果に対する研究は、キャリア形成に与える影響も含めて幅広く行われている」[石森・西尾 2021:28]と述べている。筆者はこうした背景を踏まえ、高校長期海外留学がその後のキャリア形成に与える影響について未だ明らかにされていないからこそ、具体的に公教育として後期中等教育を受ける段階においての長期海外留学の意義を十分にアピールしきれていないのだと認識している。またそれによって、高校長期海外留学の価値やキャリア形成上のメリットなどへの注目が十分になされず、高校長期海外留学という選択肢自体が高校生の間で検討されていないのではないかと考える。文部科学省は、グローバル人材の育成を今後さらに活発化させるために高校留学の促進に力を注いでいるというが、高校長期海外留学のようにその価値やキャリア形成上の影響が明らかにされていない限り、高校生の興味・関心を引くことは難しいようにも思える。短期海外留学以上に学びや経験を多く得られる高校生の長期海外留学を今後より一層加速していくためには、高校長期海外留学がその後の進路選択を含むキャリア形成にどのような影響を与えるのかを明らかにすることが必要ではないだろうか。また、それと同時に、高校長期海外留学のキャリア形成における影響が国や地方公共団体によって認知され、さまざまなアクターによって今後より推進

されたとしても、経済的、将来的、言語的な制限や不安などから留学に踏み出せない子どもたちが多くいる現実があることも、高校生を対象としたグローバル人材育成において大きな課題点であることを念頭に置かなければならない。高校長期海外留学という選択をすることによって、金銭的負担や、1年間の留年という進路選択面での負担を伴う可能性が生じるなど、長期間での留学のデメリットは多く想定でき、その本質的な価値が注目する以前に選択肢としてさえも考えないという場合があるのではないか。高校長期海外留学の更なる促進のためには、その後のキャリア形成上への影響を明らかにするとともに、公教育として位置する高等学校段階での長期海外留学のデメリットも適格に捉えた上で、改めて高校長期海外留学の本質的な価値に注目すること、加えて高校長期海外留学が今後さらに推進されるために必要なことは何かについて再検討する必要がある。

以上を踏まえて本稿では、高校卒業以降における留学経験や高校短期海外留学経験がその後のキャリア形成にどのような影響を与えるかについて先行研究を基に考察した後に、その結果を踏まえ、公教育としての高等学校段階における長期間の海外留学経験がキャリア形成に与える影響や、高校長期海外留学のデメリットとそれを踏まえた上での本質的な価値、また、今後高校長期海外留学を推進する際の留意点について、高校長期海外留学経験者で高校卒業から2年以上経過している者へのインタビュー調査を通して明らかにすることを目的とする。なお、高校卒業から2年以上経過という規定を設けたのは、卒業後の進路について注目するためであり、また、本稿で先行研究として扱う石森・西尾の高校短期海外留学とその後のキャリア形成についての研究と条件を揃え、高校短期海外留学と高校長期海外留学の結果を比較しやすくするためである。

## 2. 研究方法

本稿では、高校卒業以降における留学がキャリア形成に与える影響、そして高校短期海外留学がキャリア形成に与える影響について研究された論文の講読、その他における文献調査、高校長期海外留学経験者へのインタビュー調査を基に研究を進めるものとする。



## 第2章 グローバル人材育成の定義と施策

### 1. グローバル人材の定義

文部科学省によって用いられる「グローバル人材」という言葉は、急速に進展するグローバル化を受けて生まれたものである。文字が示すとおり、グローバル化に対応できる人材という意味であることは想像がつく。しかしながら、具体的にグローバル人材がどういった人材を示すのかをはっきりと説明するのは難しいのではないか。そこで本項では、まず「グローバル人材」の言葉の定義を確認する。

文部科学省による資料、「グローバル人材の育成について」では、「グローバル人材」に求められる要素としては、語学力のみならず、相互理解や価値創造力、社会貢献意識などがあると考えられており、その定義が説明されている。

グローバル化が進展している世界の中で、主体的に物事を考え、多様なバックグラウンドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、さらにはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材」また、「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」[文部科学省 2012:2]。

同省まとめによるグローバル人材に必要な資質としては、①語学力・コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティが挙げられ[文部科学省 2012:3]、この3要素を備える人材こそが「グローバル人材」として認識されとする。つまり、グローバル化が急速に進む今日の日本社会において必要とされているのは、この3要素を備え、異なる文化・言語・価値背景をもつ他者と関係を構築し、社会に対して新たな価値を生み出せる者ということになる。

## 2. グローバル人材育成の基本施策

グローバル人材に求められる①語学力・コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティの3要素を備えた人材の育成に向けては、すでに具体的な目標と施策が立てられており、実行にも移されている。平成30年6月15日に閣議決定された第3期教育振興基本計画（対象期間：平成30（2018）年度～令和4年（2022）年度）の「2.社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する 目標（7）グローバルに活躍する人材の育成」においては、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けてさまざまな分野でグローバルに活躍できる人材を育成する」〔文部科学省 2018:61〕として、以下の測定指標を設けている。

（測定指標）

- ・英語力について、中学校卒業段階で、CEFRのA1レベル相当以上、高等学校卒業段階でCEFRのA2レベル以上を達成した中高生の割合を5割以上にする。
- ・日本人高校生の海外留学生数を6万人にする。
- ・グローバルに活躍する人材の育成につながる短期留学者を増加させながら、大学等の日本人海外留学生数12万人を引き続き目指す。
- ・外国人留学生数30万人を引き続き目指していくとともに、外国人留学生の日本国内での就職率を5割とする。

また、測定指標の項目を達成するための具体的な政策として、第3期教育振興基本計画では、①伝統や文化等に関する教育の推進、②英語をはじめとした外国語教育の強化、③国際化に向けた先進的な取り組みを行う高等学校・高等専門学校・大学等への支援、④日本人生徒・学生の海外留学支援、⑤外国人留学生の受け入れ環境の整備、の5点が掲げられている〔文部科学省 2018:61-62〕。

以上の内閣府が掲げるグローバル人材育成にかかる具体的な目標と施策に関して、とくに筆者は、日本人高校生という後期中等教育段階からのグローバル人材育成が重要視されているという事実、また、その方法として「留学」（第3期教育振興基本計画においては短期留学）という手段が推進されている事実に着目したい。一口に留学と言っても、その期間

や目的、また留学をする人の所属や身分によって、留学には多種多様な形態が考えられるが、その中でも一般に留学とは、大学生という時期に行うものというイメージが強くあるのではないだろうか。実際に第3期教育振興基本計画の閣議決定以前に当たる平成22年12月27日には、文部科学副大臣の決定により、「産学連携によるグローバル人材育成推進会議」が設置されている。急速に進むグローバル化に対応した人材育成を産学連携による国際化戦略の構築により促進することを目的に文部科学省が実施する国際化拠点整備事業（グローバル30）や大学の世界展開力強化事業の在り方を検討するための会議と位置づけられているが、この会議が掲げているグローバル人材育成の基本方針及び具体的方策では、「高等教育」がキーワードとなっており、グローバル人材を育成するためには日本人学生の海外留学や外国人留学生の受け入れの体制を整備することが必要とされる〔産学連携によるグローバル人材育成推進会議 2011:4〕。また、現状として、2020年に世界中でパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスの蔓延により海外への日本人留学生数は減り続けているものの、新型コロナウイルス蔓延以前の2017年では、日本人高校生の留学数約4.7万人（3ヵ月未満の海外短期研修や短期海外留学も含める）<sup>6)</sup>に対し、日本人大学生の留学者数は10万7346人（1ヵ月未満の留学から1年以上の留学含める）<sup>7)</sup>と、日本人大学生の留学者数は日本人高校生の留学者数との比較において圧倒的に多いというデータがある。このことから、「留学」という選択は大学進学後に行うものであるというイメージがより社会に根付いているのではないかと捉えることができる。だからこそ、現在進行形で取り組まれている第3期教育基本計画におけるグローバル人材育成は、「高校生の海外留学」に注目しているという点で画期的であるといえる。今現在、日本政府が官民一体となって取り組んでいるグローバル人材の育成では、減少の一途を辿る日本人高校生の海外留学生数を6万人に増加する目標や、大学生の留学のきっかけ作りとしての高校生の短期海外留学生の増加目標など、日本人高校生の海外留学を今後より促進することに重きが置かれている。このことは、高校時代の海外留学経験が、その後のキャリア形成をグローバル人材として歩むことに繋がるとみなされている証拠であり、高校卒業後に迫られる大きな進路選択の一手手前にある高校時代における海外留学経験が、グローバル人材としてキャリアを形成していく上で価値あることだと認識されていると理解することができる。では、改めてここまで日本のグローバル人材育成の上でキーワードとなっている「留学」とは何を意味し、その意義として何が挙げられるのだろうか。詳しく見ていきたい。

### 第3章 グローバル人材育成で語られる留学について

#### 1. 留学の概要

一口に海外留学と言ってもその形態はさまざまである。星野は、海外留学にはさまざまな滞在形態があり、個人が語学習得や学位習得のために私費で渡航する場合、また、大学や民間会社、NGO 等が企画・実施するプログラムに参加する場合、そして数週間から1ヵ月程度の短期滞在から大学に正規生として在籍して学期・年度単位で滞在するものがあるとした上で、短期滞在外の海外留学は渡航目的や内容によって「短期海外留学」、「短期研修」、「海外ボランティア」、「スタディーツアー」、「フィールドワーク」等の言葉で表現され、一方で中・長期滞在外の海外留学では、「長期海外留学」、「学位留学」、「交換留学」、「研究留学」という言葉が使用されるとする〔星野 2018:54-55〕。ここでの短期海外留学、中・長期海外留学の期間の区別としては、一般に短期海外留学の目安は1週間から3ヵ月、中・長期海外留学の目安は半年から2年と捉えてもらえばよい<sup>(8)</sup>。このように、期間や目的、プログラムが対象とする者の所属・身分などによって区別・分類されて取り扱われる「留学」であるが、官民一体で進めるグローバル人材育成においてここまで重要視されている日本人学生の海外留学の意義とは何だろうか。それに関して、文部科学省では、「日本人の若者が海外留学をし、国際感覚を磨くことは、個人としては、国際体験を通じた国際理解・知識の拡大、語学力の向上など学生の能力や可能性を広げ、留学を通じ国境を越えた幅広い人的ネットワークの形成につながる。また、国としても、国際的な競争環境の中での国際的有用性のある人材の育成や受け入れと同様に人的ネットワークの形成による相互理解と友好関係の深化が世界の安定と平和に資するといった安全保障の観点、我が国大学等の教育研究水準の向上など重要な意味を持つものである<sup>(9)</sup>」とする。また、文部科学省がグローバル人材育成施策の一環として行う留学促進キャンペーン運営組織の「トビタテ！留学 JAPAN」は、学生時代の留学の意義として、「留学は、これまで生きてきた『枠』(Comfortable Zone)の外(Stretch Zone)へ一人で踏み出し、海外というアウェーな環境で苦痛や葛藤を乗り越える経験すること。この経験が、人を大きく成長させる<sup>(10)</sup>」としており、同組織では留学で得られる6つの成長経験として①外から日本(外)をみる機会→視野の広がり②知らないことを知り、知りたいことを知る機会→世界への関心③違う価値観に触れ、意味を知る機会→多様性受容④己のことや日本を知る、知りたいと思う機会→アイデンティティ⑤飛び込むことに自信を持つ機会→自己肯定感⑥逃げないで苦労する機会→ストレス耐性などを挙げている<sup>(11)</sup>。

このことから、留学とは、とくに若い時期にいくことで個人の内面的な成長を助長したり、個人の将来の可能性を広げたりするなどの意義をもつものであると同時に、国として日本人留学生を海外へ送り出し、海外から日本へ留学生を迎え入れることで、人と人の信頼関係の上に日本と他国との関係をよりよいものにする可能性をもつなど、国の安全保障の面でも大いに意義のあるものとして位置づけられていると捉えることができる。

## 2. 日本における留学事情

このように個人の成長や将来の可能性の面、また国の安全保障の面でも意義深い海外留学であるが、日本では主にどのような留学形態がみられるのだろうか。一般に、「海外留学」や「留学生」の定義は、世界的に見ても統一した見解はなく、時代を経て定義も変わり、データ取得国や期間によって異なるとされる〔小林 2008:113〕が、日本においては、外務省が海外留学案内として、『世界でかつやくしたい』という志を持つ青年を応援すべく、政府は 2020 年までに海外留学生を 12 万人に倍増する目標を掲げています<sup>(12)</sup>と記載しているように、一般に、海外留学の文脈で語られる対象者は高等教育機関や後期中等教育機関に在籍する生徒・学生にあると捉えることができる。そこで高校生や大学生の留学状況を確認する。文部科学省出典のデータ、図 1〔文部科学省 2022:4〕によると、短期海外留学・語学留学、海外インターンシップなどの単位取得を伴わない海外留学から単位取得を伴う長期の海外留学を含む日本人大学生の留学生数は 2009 年の 3 万 6302 人から 2018 年の 11 万 5146 人まで右肩上がりであり続けていることが分かる。しかしながら、2019 年に 10 万 7346 人と減少に転じた後には、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことも大きく、2020 年以降の 98% の大幅な減少に転じている。最新のデータは未だ取得することができていないが、2019 年以前のデータを基準に考えると、大学で海外留学を行う学生の半数以上は、1 ヶ月未満～3 ヶ月未満の短期海外留学を選択していることが読み取れる。留学を志す多くの大学生から選択される短期海外留学のメリットとしてトビタテ！留学 JAPAN は、「英語力や成績が参加の条件となっていないことが多く、長期海外留学ほど準備を必要としない。思い立ったら気軽に参加できる<sup>(13)</sup>」としており、短期海外留学の手段としては、①在籍大学等のプログラムで留学する、②海外の学校や海外のプログラムに直接申し込む、③政府や民間団体の留学プログラムに直接申し込む、④留学エージェントを通じて申し込む、の 4 つがあるとする。その一方で、短期海外留学と比較して選択されにくい大学での長期海外留学のメリットに関しては「腰を据えて勉強にも課外活動にも取り組めて深い人間関係を構築する機会が多いため、語学力も異文化対応能力も大きく向上することが期待できる<sup>(14)</sup>」とし、中・

長期海外留学の手段として、①在学大学等のプログラム（交換・認定・ダブルディグリー）で留学、②海外の学校や海外のプログラムに直接申し込む、③政府や民間団体の留学プログラムに直接申し込む、④留学エージェントを通じて申し込む、の4つがあるとする。留学をした大学生の中で短期海外留学の割合は2017年には約74%、2018年には約75%、2019年には約76%と、いずれの年も7割以上を占めていることから、中・長期海外留学の特徴である、学生に求める語学要件や就職活動・野外活動の参加に不利となる長期間の時間的制限、また経済的な負担などのいずれかまたは複数が留学を志す学生にとって、大きなデメリットとして捉えられているという現状が日本の大学留学事情として伺えるところである。



図 1 大学生の留学生数の推移

（出典：2022 年 文部科学省、「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学人数」等について）

その一方で、文部科学省出典のデータ、図 2<sup>(15)</sup>からは、高校生の海外留学数は 2017 年度に 4 万 6869 と過去最高を記録していることが確認できる。2015 年に留学生数の減少はみられるものの、2008 年と 2011 年、2013 年の留学生数からは、高校生の海外留学生数は増加傾向にあることが伺える。また、留学をした高校生の中で短期海外留学の割合は 2013 年には約 91%、2015 年には約 88%、2017 年には 91%となっており、いずれの年も全体の海外留学件数の約 9 割を占めていることが分かる。よって、現状において、「高校生の海外留学」との文脈で語られ海外留学のほとんどが短期海外留学を指しているといえる。

## ○ 高校生の留学者数の推移

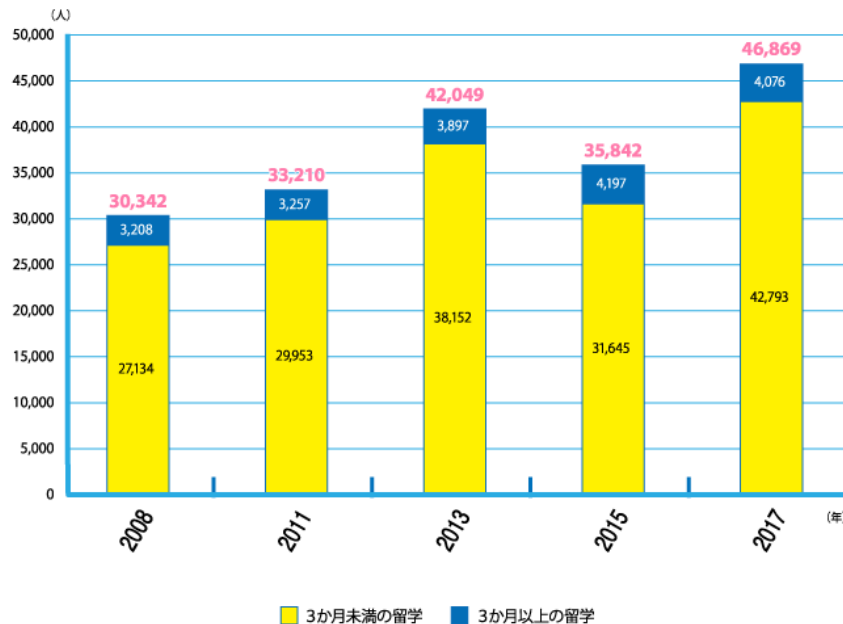


図 2 高校生の留学者数の推移

(出典：2019 年 文部科学省、「平成 29 年度 高等学校等における国際交流の状況について」よりトビタテ！留学 JAPAN 作成)

以上のデータを踏まえると、我が国においてはグローバル人材育成の観点から注目・推進される「留学」は、中期高等教育機関や高等教育機関において生徒・学生間でより身近なものになりつつあると言える。また、留学を行う生徒・学生の人数自体は増加傾向にあるものの、留学の期間としては、留学を志す半数以上の学生・生徒が 3 ヶ月未満の短期海外留学を選択する傾向にあるといえ、その理由としては中・長期海外留学が学生に求める語学要件や長期間の時間的制限、また経済的な負担などのいずれかまたは複数が関係していると考えられる。このようにして留学を希望する生徒・学生の中で選択されることの多い短期海外留学であるが、実際に、グローバル人材としてのキャリア形成に短期海外留学経験は活かされているのだろうか。個人の成長や国家の安全保障の面からは、留学経験から得た語学力やコミュニケーション力を活かしてキャリア形成を行ってもらい、グローバル人材として国内外で活躍してもらうことが望まれるところであるが、そもそも短期留学経験がその後のキャリア形成に影響を及ぼすかどうか確認しないことにはグローバル人材育成におけるその

価値を語ることは難しいのではないかと筆者は考える。従って、ここからは短期海外留学がその後のキャリア形成に与える影響について、長期海外留学のそれとの比較から考えていきたい。



## 第4章 留学経験がキャリア形成に与える影響

### 1. 留学経験がキャリア形成に与える影響についての先行研究

本章では、第3章で確認した事実を踏まえた上で、具体的に、短期海外留学と長期海外留学がそれぞれその後のキャリア形成に与える影響についてすでに発表された研究論文をもとに考えることを目的とする。またその際に、高校での海外留学と大学での海外留学を区別して比較することで、留学する段階の違いによるキャリア形成上影響についても確認したいと考える。第1章で記したとおり本稿全体を通して調査していくことは、未だ調査されていない分野にあたる、「高校長期海外留学経験がその後のキャリア形成に与えた影響」である。そのため、本章ではその比較対象にあたる大学長期海外留学経験、また高校短期海外留学経験とその後のキャリア形成の関係を確認する。

#### (1) 大学海外留学とその後のキャリア形成

明治大学国際日本学部長の横田雅弘が中心となり、留学経験とキャリア形成の関係について研究した報告書として、「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査報告書」がある。この研究は高等教育におけるグローバル人材育成に焦点が当てられており、日本におけるグローバル人材育成の課題と方向性を鮮明にするために海外留学をした方々に大規模な回顧的追跡調査を行ったうえで、留学経験がその後のキャリア形成や人生に与える影響について明らかにしたものである。

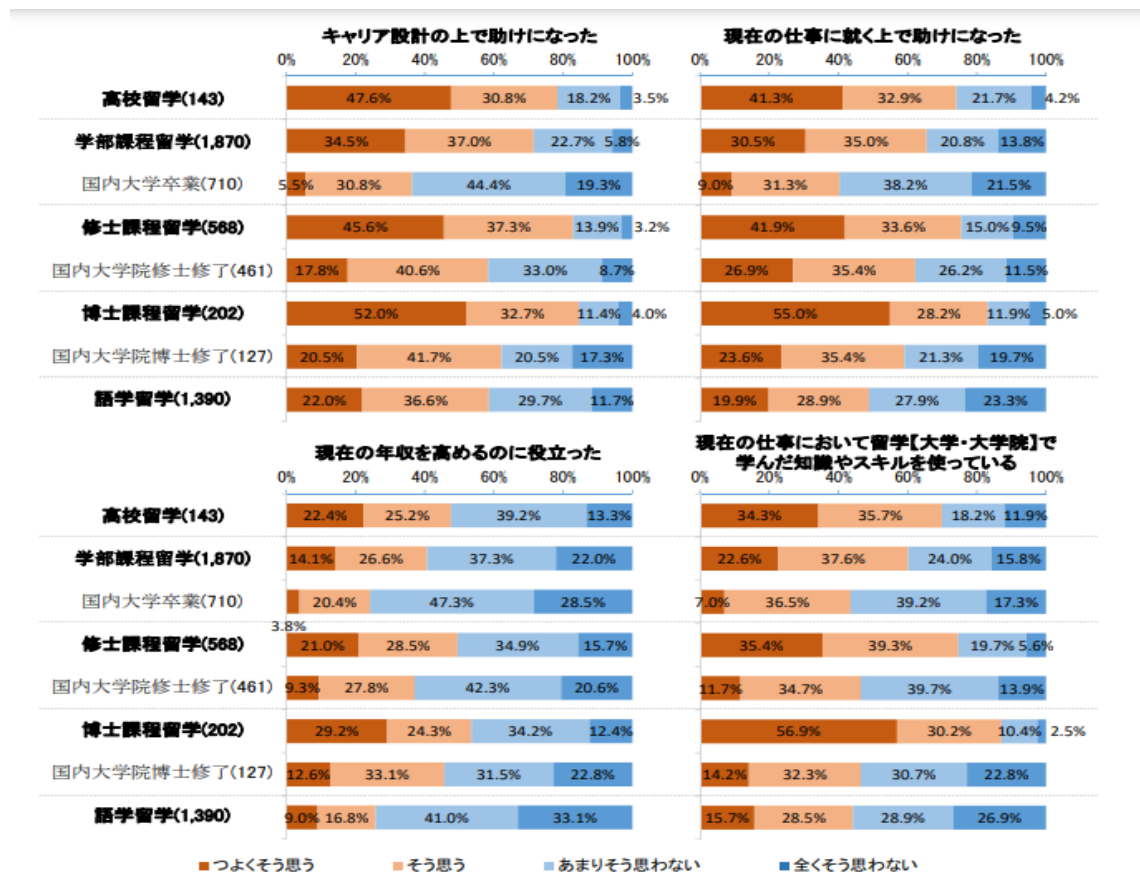
2016年3月に発表されたこの報告書では、インターネット調査によるデータ集積をおこなっており、調査対象となった留学経験者の要件としては、「少なくとも小・中学校は主に日本で過ごし、日本の高校卒業後に3か月以上の中・長期海外留学を経験した人（ただし、日本の高校卒業後も留学を経験していれば、高校在学中に海外留学を経験していてもよい）」、「海外の高等学校、大学、大学院、職業・専門学校、語学学校、インターナショナルスクール・国際バカロレア、民間のダンススクールやプロスポーツの育成チーム（専修学校等に属さないもの）、民間のビジネス研修機関は対象とならない」。また、「海外留学の目的が語学習得や学位取得であり、単なるボランティアやワーキングホリデーは含まない。」とされる[横田 2016:2]。つまり、ここでは高校時代の3か月以上の長期海外留学とその後のキャリア形成については研究されておらず、あくまでも、この研究調査は高等教育での語学的、学術的な学びを目的とした留学とその後のキャリア形成に焦点があてられたもので

ある。本研究のデータには①高校留学、②学部課程留学、③国内大学卒業（留学非経験者）、④修士課程留学、⑤国内大学院修士修了（留学非経験者）、⑥国内大学院博士課程修了（留学非経験者）、そして⑦語学留学の7つの学校種が設けられている。ここで「高校留学」という学校種別が設けられているが、これは調査対象の留学経験の要件にもあるように、日本の高校の卒業後に海外の高校へ留学したという意味であり、日本の高校在籍時の留学ではないことに注意したい。今回はこの学校種の内、②学部課程留学と④修士課程留学との2種に注目して、大学や大学院留学経験がその後のキャリア形成に影響があったかどうか確認する。

この研究では主に9つの項目からなるテーマ（①授業や課外活動に対する積極性、②留学による能力の向上、③留学後の現在の年収と役職、外国語の使用、④留学のキャリアへの影響、⑤留学の採用への影響、⑥留学による意識の形成、⑦留学による行動の変化、⑧留学による価値観・態度の変化、⑨人勢や仕事の満足度）に対しそれぞれ質問が設けられ、その回答がデータとして示されている。その中からここでは、「留学のキャリアへの影響」というテーマに対して設けられた4つの質問に着目することとする。論文で示されているデータ結果は図3〔横田 2016:14〕のとおりである。

4つの質問事項の中でも、よりキャリア形成への影響に焦点化した質問、「キャリア設計の上で助けになった」に注目する。その結果、「そう思う」または「つよくそう思う」と答えた学部課程留学経験者は70%以上、修士課程留学経験者では80%以上に上っていることが分かる。また、「現在の仕事に就く上で助けになった」という質問の回答からは、「そう思う」または「つよくそう思う」と答えた学部課程留学経験者は65%弱、修士課程留学経験者では75%を超えていることが分かる。以上を踏まえると本調査からは、学部課程留学経験や修士課程留学経験は、キャリア形成や進路選択に大きな影響を与えるものであると捉えることができる。またこの結果を踏まえれば、高校長期留学経験もキャリア形成や進路選択において大きなインパクトがあるということが推測できるものの、大学や大学院は、卒業後に就職することを視野にいれている学生が大半を占めるため、その分、学部課程留学経験や修士課程留学経験はキャリア形成に直接的な影響があると考えるのが妥当であろう。海外留学以前より具体的なキャリアイメージがあり、それを叶えるための手段として海外留学を選択する学生も多くいると考えれば、学部課程留学経験や修士課程留学経験は密接にキャリア形成と結びついているものであると言える。それでは、こうした結果は高校海外留学経験からも同様に見ることができるのであろうか。つづいて、後期中等教育段階でのグローバル人材育成として、高校生の海外留学とキャリア形成について研究した論文に注目し

たい。現在、文部科学省では高校生の海外留学が推進されているが、第3期教育振興基本計画でも確認したように、文部科学省は其中でも「短期海外留学」という言葉を明示的に使用し、短期海外留学の推進に力を注いでいる。そのため、ここでは高校短期海外留学がキャリア形成に与える影響について調査した2つの論文を扱い、高校短期海外留学がキャリア形成に与える影響について確認していくこととする。



※【 】内は留学非経験者向けの質問項目

図3 留学のキャリアへの影響

(出典：2016 横田雅弘、「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査報告書」)

## (2) 高校短期海外留学とその後のキャリア形成①

高校短期海外留学経験がキャリア形成に与えた影響について研究したものとしては、長岡技術科学大学の大前佑斗らが中心となって行った「留学経験が自発的活動・キャリア形成に与える影響の検討」が存在する。この研究では、留学経験が自発的活動およびキャリア形成に影響を与えるという仮説の上に調査が行われており、ボランティア先進国と称される

カナダへ2週間の留学を経験した高校生84名（内、使用可能データ65名分）を対象に、A. ボランティア活動、B. 知識取得活動、C. 国際的活躍志望、D. 留学経験に分類される以下の4つの質問（A～Cの回答欄は、「1.よくする, 2.少しする, 3.あまりしない, 4.しない」の4件法。Dの回答欄は、「1.した, 2.しない」の2件法）を問いかけ、その回答から短期海外留学経験がボランティア活動や外国語の知識取得活動、国際的活躍志望などへ対する意欲に影響があるかどうかを調査したものである[大前 2016:21-22]。本研究における質問事項は以下のA～Dである。

A. あなたは自主的にボランティアなど社会の役に立つ活動をしていますか（ボランティアには、募金集め、高齢者の手伝い、施設訪問、ゴミ拾い、など個人的な小さい活動も含まれます）、B. あなたは自主的に知識や技術を身に付けるために活動していますか（その活動には、講演会、読書、第二外国語の履修、授業以外の英語の学習、なども含まれます）、C. あなたは将来、留学したり、ボランティアや仕事で国際的に活躍したいと思いますか、D. あなたは今年度、自主的に海外研修や海外（短期）留学に参加しましたか [大前 2016:22]。

研究結果として、大前らは、海外留学によって自主的なボランティア活動や語学活動などの知識習得活動が促進され、キャリア形成に有益な効果を持つ可能性が示唆されたと結論付けているが、その一方で、本研究で用いられた横断的研究方法の限界としては、「留学することで、将来国際的に活躍したいという思いが高まる」のか、「将来国際的に活躍したいから、留学をする」のかデータから分析することができないとした上で、「今後は、これらの関係を切り分けて明らかにするために、時系列的に被験者を追跡する縦断的な研究法や、インタビューを併用した質的な研究法の適用を検討したい」[大前 2016:24]と述べる。筆者はこれを非常に重要な視点だと捉えており、海外留学経験自体がキャリア形成にもたらす影響について調査するのであれば、海外留学以前の進路希望・キャリアイメージと海外留学後の進路希望・キャリアイメージのギャップに注目する必要があると考えている。その点、大前らの研究では海外留学前とその後の比較がなく、海外留学経験がキャリア形成に与える影響への考察が不十分であると考ええる。

### **(3) 高校短期海外留学とその後のキャリア形成②**

高校短期海外留学がキャリア形成に与える影響について研究した論文として、石盛真徳と西尾健による「高校生の短期海外留学プログラム参加経験がキャリア形成に与える影響」

というものもある。この研究は、ニュージーランド政府とエデュケーション・ニュージーランド（ニュージーランド教育省）が 2014 に開始した、英語学習とスポーツを学ぶ「Game on English」プログラムにラグビー留学をした高校生 8 名(インタビュー調査時大学生)を対象に半構造化インタビューを実施し、短期海外留学プログラム参加経験がその後の英語学習やラグビー活動、またキャリア形成に与えた影響について調査したものである[石盛・西尾 2022:30]。石盛と西尾は、高校選択自体が自明視されている状況にある日本においては、高校卒業時点で個人がはじめて就職するのか、進学するのかという多様な進路選択課題に直面すると捉えており、それゆえ、高校卒業時の進路選択に留学経験がそのような影響を及ぼすかを検討することは重要であると考えている。また、「高校生の留学経験は、直接的な高校での学びや、続く高校卒業後の進路選択へと影響するとともに、直接的な関連性は薄くなるものの、大学等へ進学した場合のそこでの勉強や課外活動、さらには大学等の卒業の進路選択へと各自の志向性への影響を通じて、さまざまな影響を及ぼすものと推察される」[石盛・西尾 2020:29] と述べていることから、本研究は、高校海外留学経験は大学での留学経験と比較してキャリア形成に与える影響は少ないものの、間接的な影響は少なからずあるとの仮説のもとに行われた研究であると捉えることができる。本研究ではインタビュー調査を通して、高校での海外留学から大学での進路選択までには相当な期間があくことから、大学卒業後の進路選択への留学経験の影響はそれほど直接的なものでないものの、英語学習への積極的な関与など間接的な影響は見られたとの結論に至っている。つまり、進路選択・キャリア形成の最終点を就職先として考えれば、高校短期留学のキャリア形成上の影響は間接的なものに留まるということになる。

## 2. 先行研究の結果について

以上、海外留学がキャリア形成に与える影響についての 3 つの先行研究からは、大学や大学院での留学であれば進路決定に直接的な影響が見られること、また、高校短期留学のキャリア形成上の影響としては、高校卒業後の進路選択には少なからず影響はあるものの、大学という期間を挟んだ上での就職という進路選択においては、高校時の短期留学の影響は間接的なものに留まるという結果を得ることができた。これを踏まえた上で、筆者は、高校での海外留学経験が直接的に影響を及ぼすのは高校卒業後の進路選択であるものの、高校時代の留学経験で得た価値観や学びはその後の全ての進路選択に関わると推測する。よって、本稿の第 5 章で行うインタビュー調査においては、高校卒業後の進路選択のみならず、さらにその後の進路選択についても高校代の海外留学経験が影響しているかどうかについても

調査対象者に聞くこととする。また、高校長期海外留学経験者へ調査を実行する際には、海外留学以前に抱いていた進路希望・キャリアイメージと海外留学以後の進路希望・キャリアイメージのギャップを捉えるような質問を行うことで、高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響の程度についても捉えたいと考える。

## 第5章 高校長期海外留学経験がキャリア形成に与える影響についての調査

### 1. 研究の目的

本研究では、「高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響」、「高校長期海外留学のデメリットとそれを踏まえた上での本質的な価値」、また「今後高校長期海外留学を推進する際の留意点」について明らかにすることを目的としている。

### 2. 研究方法

目的に沿って、高校時代に半年以上の長期海外留学経験者をした者で、高校卒業後から2年以上経過した者を対象にして、1人あたり40分程度の高校長期海外留学経験に関する半構造化インタビュー調査を行った。以下、対象者、調査の実施時期、インタビューの構成を説明する。

#### (1) 対象者

インタビュー対象者は、高校時代に半年以上の長期海外留学経験者をした者で、高校卒業後から2年以上経過した者A~Lの計12名。音声通話アプリを用いて、オンラインでインタビューに回答した。謝礼は提示していない。調査開始時に口頭で説明合意を得ている。性別の内訳は男性3名女性9名で、平均年齢は、23.9歳（23歳～25歳）である。インタビュー対象者が高校長期海外留学を実施した際の在学年次、年齢、留学先、留学期間、留学方法、また留年の有無については以下の通りである。

「インタビュー対象者の背景」

- A：女性/高校3年次・18歳/アメリカ/10ヵ月/留学団体/有り
- B：男性/高校2,3年次・16-18歳/カナダ/2年間/個人/有り
- C：女性/高校2年次・16歳/アメリカ/10ヵ月/留学団体/無し
- D：女性/高校2年次・16歳/オランダ/11ヵ月/留学団体/無し
- E：女性/高校2年次・16歳/アメリカ/10ヵ月/留学団体/無し
- F：女性/高校1年次・15歳/アメリカ/10ヵ月/留学団体/無し
- G：男性/高校1年次・15歳/スウェーデン/10.5ヵ月/留学団体/無し

- H：女性/高校2年次・16歳/イタリア/10ヵ月/地方自治体のプログラム/有り  
I：女性/高校1年次・16歳/オーストラリア/10ヵ月/地方自治体のプログラム/無し  
J：男性/高校3年次・17歳/アメリカ/10ヵ月/留学団体/無し  
K：女性/高校2年次・16歳/アメリカ/10ヵ月/留学団体/無し  
L：女性/高校2年次・16歳/ドイツ/10ヵ月/留学団体/有り

## (2) 調査の実施時期

2022年10月14日～11月19日。

## (3) インタビューの構成

インタビューは大きく以下の9つの質問項目から構成されている。

- 質問1：高校長期海外留学をしたきっかけや理由について。  
質問2：高校長期海外留学以前の進路希望について。  
質問3：高校卒業後の進路について。  
質問4：高校長期海外留学経験がキャリア選択に与えた影響について。  
質問5：短期海外留学と長期海外留学がキャリア形成に及ぼす影響の違いについて。  
質問6：高校長期海外留学中の挫折経験とそれを乗り越えたかどうかについて。  
質問7：高校長期海外留学のデメリットについて。  
質問8：デメリットがあっても高校長期海外留学をする価値について。  
質問9：今後高校長期海外留学を推進する際に考慮すべきことについて。

それぞれの質問の意図を説明する。まず、質問1の意図は、回答者が自発的に高校長期海外留学を希望する傾向にあったかを確認するためである。つぎに、質問2の意図と質問3の意図は、回答者の海外留学前後における進路希望の変化を確認することで、高校長期海外留学経験が進路希望やキャリア選択に変化をもたらしたかを確認するためである。そして、質問4の意図は、回答者自身が認識する高校長期海外留学のキャリア形成上の影響について、その具体的な内容を確認するためである。また、質問5の意図は、回答者自身の経験から高校時の短期海外留学と長期海外留学を比較することで、それぞれがキャリア形成に与える影響の差について確認するためである。さらに、質問6,7の意図としては、回答者が経験した挫折経験やデメリットについて確認することで、高校長期海外留学の実情を明らかにす



ることである。その上で、質問 8 の意図は、質問 6,7 での回答を踏まえた上で、それでも高校長期留学をする価値があるのであれば、そこから高校長期海外留学の本質的な価値を見出すためである。最後に、質問 9 の意図は、高校長期海外留学を推進する際に考慮しなければならない点を回答者の経験をもとに確認することで、今後の更なる推進に繋がるヒントを得るためである。

### 3. インタビュー調査の結果

#### 質問 1：高校時に長期海外留学をしたきっかけや理由について教えてください。

##### 回答内容：

- A：英語力を向上させるため、将来英語を使う仕事に就きたいから、家族からの勧めがあったため。
- B：自由度の高い海外の学校制度への憧れがあったため、親元を離れた生活への憧れがあったため、留学という決断に対して周囲の大人からのサポートが得られたため。
- C：英語への興味があったため、英語力を向上させるため。
- D：海外や国際交流への興味があったため、日本にはない刺激が欲しかったため、現地の高校生との生活に憧れたため。
- E：海外渡航願望があったため、家族から勧められたため、日本の高校での指定校推薦に役立てるため。
- F：国際交流への興味があったため、アメリカの文化に興味があり渡航したいと思ったため。
- G：人と違うことがしたかったから。
- H：国際交流への興味があったため、海外に渡航したかったため。
- I：英語力を向上させるため、ホームステイ経験に憧れたため、異文化交流へ興味があったため。
- J：海外の大学に正規留学として入学した先輩に憧れて自分も海外で学びたいと思ったため、海外大学進学のため。
- K：異文化への興味があったため、姉が高校長期海外留学をしており自分もしたいとおもったため。
- L：国際交流に関心があったため、日本での国際交流経験から興味がさらに増したため。

A~L それぞれの高校長期海外留学のきっかけや理由からは、12 人全員が自ら希望して長

期海外留学を選択したことが分かる。中でも、国際交流への興味や語学力向上への意欲、日本の高校生活ではできないような経験を求めて長期海外留学を希望したという回答が目立ち、もともと海外という土地での暮らしや他言語へ興味があり、またそこに周囲からのサポートが得られたことが高校時での長期海外留学というキャリア選択に繋がっていると捉えることができる。

**質問 2：高校長期海外留学以前の進路希望を教えてください。**

**回答内容：**

- A：法学部。
- B：とくになし、理系。
- C：英語系、保育系。
- D：英語系。
- E：英語系。
- F：英語系。
- G：政治系に興味あり。
- H：国際系。
- I：語学力が活かせる分野。
- J：とくになし、海外の大学進学希望。
- K：航空系。
- L：国際交流や人と関わる仕事。

A～Lがそれぞれ高校長期海外留学をする以前に描いていた進路希望について確認すると、12名中10名が、高校卒業後に進みたい学問や職業を少なくとも持っていることが分かる。中でもA、G、KはC、D、E、F、H、I、Lとの比較において、具体的に高校長期海外留学で身に付くだろう語学力やコミュニケーション能力を活かして何がしたいかまでキャリア形成として描けており、留学後の進路まで見通した上で留学という経験を積みに行っているということも読み取れる。一方で、「とくになし、理系」と回答したBは高校卒業後のキャリア形成に見通しをもっている他の10名と比較して、高校長期海外留学が興味の分野を見つけるきっかけになったり、留学期間がその後のキャリアを検討する期間にもなったりし得るという意味で、より高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響は大きくなるのではないかと推測できる。また、「海外の大学進学希望」と回答したJに関しては、学びた

い分野や興味のある職種以上に、海外の大学への進学が第一希望であるため、他の 11 名とは異なるものの、具体的な進路を描いた上で留学に臨んでいることが伺える。

**質問 3：その後の進路について。**

**質問 3-1：高校長期海外留学、また高校卒業後の進路について教えてください。**

**回答内容：**

- A：4 年制大学法学部政治学系。
- B：4 年制大学社会学系。
- C：4 年制大学言語コミュニケーション系。
- D：外国語専門学校。
- E：4 年制大学グローバル系。
- F：4 年制大学国際系。
- G：4 年制大学国際政治系。
- H：4 年制大学国際系。
- I：4 年制大学国際系。
- J：カナダの 4 年制大学コミュニケーション系。
- K：4 年制大学国際観光ビジネス系。
- L：4 年制大学異文化コミュニケーション系。

**質問 3-2：現在所属している組織について教えてください。**

**回答内容：**

- A：大学院法学部（国際弁護士を目指して勉強中）。
- B：食料品会社（130 以上の国と地域に商品を届ける、グローバルカンパニー）。
- C：子供英会話教室。
- D：留学斡旋会社やオランダ移住を経て現在は飲食店勤務。
- E：情報 IT サービス系の会社（社員の約 70%が外国籍であり、社内公用語は英語）。
- F：省庁。
- G：大学院国際政治系（省庁に就職予定）。
- H：広告業界。
- I：大学生（語学が活かせる就職先を職希望）。
- J：建設系企業。（海外に拠点を多くもつグローバル企業）。

K：空港のグランドスタッフ。

L：ホスピタリティー系の会社。

まず、質問 3-1 から 12 名が高校長期海外留学を経て高校を卒業した上で進んだ進路について確認すると、12 名全員が大学または専門学校に進学しており、その内 C、D、E、F、H、I、L の 7 名が、グローバル系、語学系、または国際系という分野に進んでいることが分かる。この 7 名は、質問 2 から留学前にも英語系や国際系への進学を希望しており、高校長期海外留学後にも進路先希望に変化がなかったことが分かる。また、A、G、J は質問 2 で留学以前に具体的に描いていた進路希望先、それぞれ、法学部、政治系、海外の大学に進学しており、高校長期海外留学前後で進路希望に変化がなかったことが伺える。さらに、質問 2 で「とくになし、理系」と回答した B については、高校卒業後に社会学系に進学しており、留学前後で興味のある分野や進路希望に変化があることから、高校長期海外留学経験が進路希望先の決定に直接的に影響を及ぼしたことが推測できる。

つづいて、質問 3-2 から 12 名の現在の所属先を確認する。語学力が活かせ、将来的には海外での勤務が可能であり、日本国内でも海外からの人々を相手にするような仕事に就いた、または就く予定と回答した者は 12 名中 10 名という結果になった。その中でも、高校長期留学以前の進路希望から一貫して法学を勉強したいと回答した A は、高校長期留学で得た語学力を活かして将来は国際弁護士になることを目指していることから、高校長期留学経験が将来像の具体化に影響していると捉えることができる。また、B、E、J はそれぞれ語学力を活かせるグローバルカンパニーへ就職している。C、F、K、L は高校長期海外留学以前の希望進路先に就職しており、語学力を活かせる仕事を得ていることが分かる。D は高校卒業後に留学斡旋会社へ就職した後、高校長期海外留学をした国であるオランダに移住していることから、高校での長期海外留学経験がキャリア形成に大きな影響を与えていると考えることができる。さらに、I は未だ大学生で就職はしていないものの、将来は語学を活かせる仕事をしたいと志していることから、高校長期海外留学経験が間接的であってもキャリア形成に影響を与えているのではないかと推測することができる。

#### 質問 4：高校長期海外留学経験はその後のキャリア形成に影響したと思いますか。

(回答では影響したという意見に YES を、影響しなかったという意見に NO を付けて区別して表示する。)

#### 回答内容：

**A : YES**→留学で英語力が伸び、スコアで良い点を出せたため推薦を使って希望する大学に入れた。辛い留学経験を乗り越えられた自分は受験も乗り越えられるという自信、気合に繋がった。

**NO**→もともと法学部希望だったため進路希望の変更はなし。

**B : YES**→2年間留学したことで得た帰国子女卒や、海外の高校を卒業したことで得た2枠以上の推薦が希望先大学の進学に繋がった。日本の高校では理系コースに進んでいたが、海外の縛りのない授業履修の中での勉強や外国の英語の小説に影響を受け、文系、とくに社会学を専攻したいと思うようになった。

**C : YES**→留学したからもっと英語に触れたいと思うようになった。

**NO**→もともと英語系か保育系希望だったため、大幅な進路の変更はなし。

**D : YES**→留学によって英語で話すバリアが解消され、外国人と話す機会が増加したことなどが、結果的にオランダ移住に繋がった。その前は、留学して留学サポート側に回りたいと思ったことから留学会社に就職していた。高校留学があつてこそ開けた進路。

**NO**→もともと英語系を希望していたため、留学なくとも外国語系の専門に行っていた。

**E : YES**→留学前の英語力では英語で大学入試を受けるAO入試に受かっていなかった。高校留学でアメリカが自分に合わないと感じた後、大学時代にオーストラリアへ留学したが、それらの経験や英語力が就活でも評価され就職にも繋がった。

**NO**→もともと英語系を希望していたため進路希望先としては一緒。

**F : YES**→留学中に現地の英語ディベート部に入るなどして、英語力が留学前よりさらに向上したため、それを活かせる国際系に進学した。大学選びにはとても影響した。

**NO**→就職先を決めるのに直接影響したのは大学生活。留学前から一貫して国際系に進みたかった。

**G : YES**→大学進学において留学で得た英語力は役立った。英語ができたため他の勉強に時間がさけた。

**NO**→留学以前より政治に興味があつたため、分野的には変わっていない。

**H : YES**→大学進学に関しては留学があつたからと感じており、国際系に進みたいという進路希望に対して、留学経験があつたことから推薦を得て進路希望を実現することができた。

**NO**→就職先に関して言えば、大学生活4年間での経験が直接影響している。

**I : YES**→英語力や留学を全うしたという自信がつぎに活きた。留学を経て語学を使って何

ができるか想像がつくようになった。留学をしたことで推薦を使って希望先大学に入れた。

**J : YES**→英語力が向上して、結果が出せたから海外の大学に正規留学できた。高校留学を通して海外で生活したという経験が海外の大学への正規留学を後押しした。

**NO**→就職先に関しては、海外大学の在学中に行ったアルバイトなどが直接関わった。

**K : YES**→留学で英語力が向上したから希望する大学に入れた。高校長期海外留学経験が大学入試で評価された。

**NO**→留学以前から航空会社系に就職したいと考えていたため、希望進路先としては留学前後で変わっていない。

**L : YES**→大学入試が面接と小論文と語学の資格で評価されたため、留学で身に付けた語学力が役に立った。大学受験が比較的スムーズにいった。

**NO**→留学前から人と関わる仕事や国際系を希望していたため、希望進学先の分野としては留学前後で変わらない。

質問 4 に対する A~L の回答結果は以下のとおりである。

- ①「YES」と答えた...12 名全員。
- ②「YES」のみで答えた...B と I。
- ③「YES」と「NO」の両方で答えた...A、C、D、E、F、G、H、J、K、L。
- ④「NO」のみで答えた...無し。

①の背景に注目すると、全員に共通して「英語力」というキーワードが見られ、その内、A、B、E、G、H、I、J、K、L の 9 名は「大学入試」「推薦」「AO 入試」などというキーワードを用いて、高校長期海外留学で向上した英語力が、高校卒業後の希望進学先入試で役立ったとの発言をしている。日本の大学入試制度ではかねてより推薦入試や AO 入試において、資格優遇要件の 1 つとして英語資格・検定資格の活用が見られたが、文部科学省による 2014 年のスーパーグローバル大学創設支援事業の創設もあり、2015 年以降一般入試においても英語資格・検定資格の活用度合が高まっている [河合塾 2017]。そのため、高校長期海外留学によってグローバル人材に欠かせない英語力を得た彼らは、国公立大・私立大の推薦入試、AO 入試また一般入試においても、英語力を伴わない学生との比較において高く評価される傾向にあり、その結果として希望進学先に入学しやすくなったことが考えられる。また、③の背景に着目すると、「NO」と答えた者の内 A、C、D、E、F、G、K、L の 8 名に共通して、「留学以前の進路希望と留学後の進路希望 (大学進学及び就職先) に変化がない、

または興味のある分野に変化がなかったため」という回答が見られ、H、Jの2名には共通して「高校長期海外留学経験は大学進学には影響があったものの、就職に関しては大学での経験の影響が大きいから」という回答が見られた。このことから、留学以前より興味のある分野や職業が決まっている場合には、高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響は限定的になる傾向にあり、また高校長期海外留学が大学卒業後の進路に与える影響についても、大学での経験の方が就職先の決定により直接的な影響を与えるため、限定的になる傾向にあると捉えることができる。そして、「NO」と答えなかったBには留学以前の進路希望と留学後の進路希望に変化が見られ、留学期間中に会った学問が進学先の大学及び学部選択に直接繋がっている。また、同じく「NO」と答えなかったIに関しては、留学以前より「語学力が活かせる分野」を希望しており、大学も国際系の学部に進学しているものの、「留学を経て語学を使って何ができるか想像がつくようになった」との回答からも分かるように、留学中の語学習得経験を通して、語学を使って何ができるか、又はしたいかについて想像・検討がついたことが大学及び学部選択に活きていると捉えることができる。よってBとIは共に高校長期海外留学経験があったからこそその進路決定になっていると理解することができる。以上から、英語力向上への意欲、且つ国際交流へ興味がある者で、留学以前より希望する分野や学問、職業などがある者の場合、高校長期海外留学がキャリア形成へ与える影響としては、英語力向上による進路希望先への進学のしやすさが主に挙げられ、一方で英語力向上への意欲、且つ国際交流への興味がある者で、留学以前に進路希望先の分野や学問、職業などが明確にない場合、高校長期海外留学での経験が進路先決定に大きな影響を与える場合があり、その上で身に着けた英語力によって進路希望先へ進学しやすくなると捉えることができる。

**質問5:3ヵ月未満の短期海外留学をしていたとしても今と同じ進路を辿っていたと思いますか。**

(回答では同じ進路を辿っていたと思うという意見にYESを、同じ進路を辿っていなかったと思うという意見にNOを付けて区別して表示する。)

**回答内容:**

A:NO→3ヵ月では英語力が伸びず、進路先の大学が求める英語力をクリアできていなかったと思うため。辛い1年間の高校海外留学を乗り越えたという経験から得た自信がなければ、その後チャレンジ精神も旺盛でなかったと感ずるため。

B:NO→100%異なると感じており、3ヵ月だと英語力がそれほど伸びなかったため、制度

的にも推薦や帰国子女枠を利用して大学受験できていないため。

**C: NO**→3 ヶ月で終わっていたら英語力がそこまで伸びなかったため、英語系には進んでいなかったと思う。

**D: YES**→留学したことで一種の壁が取れるため、期間に関係せず影響はあると感じている。  
大きい進路で言うと、3 ヶ月の短期海外留学を選択していたとしてもあまり変わっていないと感じる。

**E: NO**→進路希望先は変わらないものの、英語力や性格上の自信は3 ヶ月の短期海外留学であんまり変わらないと思うため。留学スタートから半年経ったところに経験したスランプを乗り越えたという自信は3 ヶ月では得られない。

**F: YES**→留学自体がすごく転機になったわけではなく、留学にいく前から国際系に進みたいと考えていたため、3 ヶ月の短期海外留学でも同じ道を選んでいたと思う。

**G: YES**→スウェーデンへ留学したため、英語力は3 ヶ月の留学でも変わらなかったと思う。  
だから、3 ヶ月でも同様の結果になったと感じる。

**H: NO**→もともと国際系に興味があったものの、3 ヶ月の短期海外留学をしていたら今と同じ進学先になっていたかと問われれば、推薦が貰えるかは変わってくるので違うと感じる。

**I: NO**→3 ヶ月の短期海外留学だと、リミットが目の前で見えるから、遊んで終わりそうな感じがするのに比べ、10 ヶ月の長期海外留学だとリミットが見えないからこそサバイバル精神も身に付くし、語学力の定着を自分で実感できる。

**J: NO**→海外の大学進学ありきで高校長期海外留学に行っており、留学生生活を振り返ると、3 ヶ月の短期海外留学の生活では学びきれることが少なかったと感じる。

**K: NO**→3 ヶ月の短期海外留学では長期海外留学と比較して語学力が伸びないから違うことになっていたと思う。

**L: YES**→留学以前と以後でなりたい職業は変化していないため、短期海外留学をしていたとしても方向性では変更はないと感じる。

質問 5 に対する回答からは、長期海外留学の代わりに3 ヶ月未満の短期海外留学を行っていたとしても同じ進路を歩んでいると思うかという問いに対し、同じ進路を辿っている (YES) と答えたのは、D、F、G の3 名、そして同じ進路を辿っていないだろう (NO) と答えたのは、A、B、C、E、H、I、J、K、L の9 名という結果になった。まず、「NO」と答えた9 名の回答内容を確認すると、「3 ヶ月では語学力が伸びなかったため希望先の大学に



入れなかったと思う」との回答が目立つ。これは、高校長期海外留学経験者が自身の留学経験を振り返った上で、3ヵ月時点での語学力と長期海外留学終了後の語学力の比較から導き出した回答であり、長期海外留学で得る語学力と短期海外留学で得る語学力には進路先を左右するような明確な差があることを示すものであると捉えることができる。続いて、「YES」と答えた3名の回答を確認すると、Dはオランダへ、Gはスウェーデンへ留学するなど、留学先で英語以外の言語の習得をしていることが共通してみられる。また、Fに関しては、アメリカへ留学しているものの、大学へは一般入試で入っているため、習得した語学力が直接大学入試に大きな影響を及ぼしたとは確認できない。以上の全体の結果を踏まえると、長期海外留学と短期海外留学の違いについては、経験内容や学びの深さ、また現地コミュニティへの浸透度などがあると予想がつくが、キャリア形成の面からその差異を比較するならば、長期海外留学経験によって高い語学力を身に付けた者の方が、短期海外留学経験者との比較において希望進路先から評価されやすく、希望進路の実現に繋がりやすいと捉えることができる。

#### **質問 6：挫折経験について。**

##### **質問 6-1：高校長期海外留学中に挫折した経験などがあれば教えてください。**

##### **回答内容：**

- A：現地の学校には言語が分からないまま突然編入する形になるため、友達作りや授業の理解度の面で大きな挫折を経験した。ホストファミリーとの関係性に悩み、最初の3ヵ月間は本当にきつく毎日泣いていた。
- B：現地に行ってすぐは何か分からなくてもどうにでもなるという勢いが自分にあったが、半年くらいして英語が多少話せるようになってくると、ネイティブとのコミュニケーションにおいて、「伝わらない」という経験がとても苦に感じるようになった。
- C：語学力不足で、ホストファミリーとのコミュニケーションがうまくいかなかった。留学生がいることが当たり前になっている現地の学校で友達を作るとはとても難しかった。授業にもついていけず、授業中に泣かないようにするのに必死だった。
- D：オランダ語が分からないなか、現地の学校で友達作りをすることはとても難しかった。言語の壁の大きさを感じずにはいられなかった。
- E：ホストファミリーとの生活環境の悪さが一番の挫折になった。良くない環境とは分かっていたても自分の英語力に自信がなかったため、伝えることができず堪えるしかなかった。
- F：留学スタートから3,4ヵ月したころにホームシックになった。

G：スウェーデン語ができないことも含め、現地の生活でできないことが日々積み重なっていく感じがあり、1人で悩むことがたくさんあった。

H：ホストファミリーの輪に入れてもらえないときが一番きつかった。

I：現地の学校の授業についていけなかった。自分が意図していることが相手になかなか伝わらないという経験が多く、言語の壁を感じた。

J：コミュニケーションができないわけではないが、細かいニュアンスなどが伝わらないことが多くあった。海外の大学進学の手続きを現地でする必要もありプレッシャーに感じていた。

K：留学スタートから1,2ヵ月は特に言語の壁を感じていた。

L：言語の面で、勉強してもドイツ語が向上しないという期間があり悩んだ。

#### **質問 6-2：その挫折経験は乗り越えることができましたか。**

##### **回答内容：**

A：留学スタートから半年くらい経つと、うまくいなくても大丈夫だと思えるようになり、英語が通じなくてもそこまで気にしなくなった。その後は順応できた。

B：授業を受ける上での英語力としては十分なレベルまで達成できたので、その後はネイティブのようににはできるはずがないと割り切ることで気にしなくなった。

C：留学スタートから3,4ヵ月した時に留学生としてきたドイツ人の子と仲良くなり学校生活を楽しめるようになった。

D：長期留学で時間があつたため、なんとか友達を作ろうとオランダ語を向上させるために、1日100個とか単語覚えたり、ずっと夜通しオランダ語のラジオ聞いたり、アニメをオランダ語で観たりした。結構頑張っってやっとなんか話せるようになってきた。

E：英語力にある程度自信がついた頃に地区の留学担当者に相談して解決した。

F：時が解決した。友達ができたこともあり、現地の生活に慣れることができた。

G：留学終了までに全て解決したわけではない。言語に関しては留学スタートから4,5ヵ月したころに上達してきた。

H：最初のころは我慢していたが、途中で現地の学校コーディネーターの人に相談するなどした。全て解決しなかったが、自分の中で折り合いをつけることができた。

I：いい意味で適当になり、オープンになった。うまくいなくてもあまり気にしないようになった。

J：現地の生活をする中で英語力が向上した。

K：留学スタートから5ヵ月くらいすると英語力が向上した。

L：大学留学と異なり、高校での長期海外留学は強制的に現地の人々の生活環境に入らないといけないため、話す機会が多く、現地で暮らすうちにドイツ語が向上していった。

高校長期海外留学中の挫折経験については、「言語の壁」がキーワードとして挙げた。現地で話されている言葉が理解できない、また話せないからこそ、学校生活では授業の理解度や友達作りの面での挫折が見られ、また家庭生活ではホストファミリーとのコミュニケーションに支障が生じて関係性の向上が難しかったなどの挫折が共通して見られた。Lが指摘したように、高校長期海外留学ではホストファミリーとの暮らしや、現地の学校での生活が前提となっている場合が多く、短期海外留学や大学留学との比較において現地の人々に関わる機会が必然的に多くあるため、その分言語の壁というのが余計に強く感じられたのではないかと考える。また、質問6-2では、質問6-1での挫折経験を乗り越えることができたかどうかについて回答を求めた。その結果、「時が経つにつれて語学力が向上した」という回答や、「留学生活でうまくいかないことがあったとしても気にしなくなった」とする回答が多く見られた。このことから、Dが指摘したように、高校長期海外留学が短期海外留学とは異なり、留学中に直面した課題に対して解決に向けて行動する時間が確保されていることが挫折経験の解決に繋がっていることが想像できる。長期海外留学の場合、留学の序盤や中盤に、ホームシックやホストファミリーとの関係性、また言語面において挫折を経験したとしても、その後の残りの期間は生じた問題に対して折り合いをつけることで現地にてどうにか暮らしていく必要がうまれてくる。12名の回答からは、折り合いをつけるための努力として、語学力を向上させることや頼れる誰かに相談すること、うまくいなくても気にしないこと、柔軟に対応すること、そして割り切ることなどの内面的な変化を読み取ることができ、そこに関しては長期海外留学だからこそその個人の成長として捉えることができるのではないかと感じる。

#### **質問7：高校長期海外留学のデメリットについて何かあれば教えてください。**

(12名の回答から出た意見をまとめて表示する。)

#### **回答内容：**

##### **【大学受験】**

- ・留学中には日本の大学受験に向けて勉強ができないから焦りや不安を覚えた。

- ・留学中、帰国後に控える大学受験の勉強をしなければいけなかったため、留学生活が100%楽しめなかった。
- ・帰国後に日本の学校の勉強についていけなかった。
- ・推薦やAO一本での大学受験に不安を感じた。

#### 【留年】

- ・1年学年を落とすため、同級生と同時に卒業できない。

#### 【ホストファミリー】

- ・当たり外れが大きく、自分が安全と思える家庭を見つけるのが難しいうえ、現地では自分でホストファミリーを変えることも難しい。
- ・生活環境の悪いホストファミリーと1年間過ごすこともある。
- ・ホストファミリーとの生活では自分に決定権があるわけではないので、自分のしたいことができない。
- ・高校生だからこそ自分のアイデンティティが未だ確立できておらず、ホストファミリーとの付き合いが上手くいかなかった。
- ・ホストファミリーから家族扱いされないことで孤独感があつた。

#### 【友人関係・学校生活】

- ・長期海外留学だと帰国後に同級生との温度差を感じやすい。
- ・帰国後に日本の学校生活に慣れるのに時間がかかってしまう。
- ・日本の高校の修学旅行に参加できないなど、日本での青春が味わえない。

#### 【金銭面】

- ・長期海外留学の費用の高さ。
- ・高校生でまだ金銭感覚が身についていないのに、自分の判断で買い物などをする必要があったため、お小遣いとして恐ろしい額を使ってしまっていた。

#### 【精神面】

- ・高校生だし、言語ができないために誰かに助けを求めないと何もできない自分に戸惑いを感じることもある。
- ・孤独、且つ決められたホストファミリーと決められたルールの中で過ごさなければならぬから1歩間違えると精神を壊す。
- ・日本の家族と長期的に会えないことから孤独を感じることもある。
- ・高校生というのは、まだ自分の精神の立て直し方もストレス対処法も確立できていない時期だからこそメンタル的に懸念はある。

- ・大変なことであっても1人でなんとかしないとけない。

#### 【その他】

- ・日本の高校生活はゆとりがないため、現地の歴史や文化、言語をたくさん勉強してからの渡航とはいかなかった。
- ・高校長期海外留学自分に合わず、途中帰国する子などはその後のキャリアプランが崩れてしまう。

質問7の回答内容から、12名が考える高校長期海外留学のデメリットについて確認する。12名の回答内容には共通したキーワードが多く見られたため、カテゴリー化によって整理した。その結果、高校長期海外留学のデメリットについては、「大学受験」、「留年」、「ホストファミリー」、「友人関係・学校生活」、「金銭面」、「精神面」「その他」の7つのカテゴリーに分類することができた。全てのカテゴリーに共通して、高校生という時期や発達段階がデメリットに繋がっていることは注目に値する。カテゴリーの「大学受験」では、留学後に控える大学受験への心配や焦りから留学が満喫できないという点や、10ヵ月間に渡って日本の学校を離れたために学力が落ちるという点がデメリットとして多く挙げられた。また、「留年」や「友人関係・学校生活」では、3年間しかない高校生活の1年間を留学に使うことで同級生との思い出作りができないという点や、留年して同級生と卒業できなくなることが精神的に負担になるという点がデメリットとして挙げられている。「ホストファミリー」というカテゴリーでは、自分でホストファミリーを選択することができない上に、相性の合わないホストファミリーや生活環境の良くないホストファミリー、また家族の一員として受け入れてくれないホストファミリーと長期間一緒に生活するとなると精神的な負担は大きいと捉える人が多かった。高校留学は大学留学と異なり、未成年者の留学になるため、ほとんどの場合で留学機関が手配するホストファミリーと生活を共にすることとなる。インタビューでは、文化背景や生活習慣などの異なるホストファミリーと生活を共にすること自体に抵抗を感じるという意見はなかったものの、ホストファミリーの生活環境も多岐に渡り、自分との相性や生活環境が合わないホストファミリーが手配された場合には、長期の暮らしに精神的負担を感じてしまうこともあるのだと理解できる。その他にも、「金銭面」では、金銭感覚のない高校生だからこそ留学先でお金を使いすぎてしまうという点や長期海外留学自体の費用の高さがデメリットと挙げられたり、「精神面」では、ストレス対処の経験や一人でさまざまな問題を乗り越えるという経験が少ない高校生だからこそ、異なる生活環境への挫折や言語面での挫折にストレスを感じやすく、1歩間違えれば精神的に崩れ

てしまうことがあるという点が挙げられたりした。以上を踏まえると、高校長期海外留学には、未成年で人生経験が浅い上に、大学受験を控える高校生という時期だからこそ生じるデメリットが数多く存在することが分かる。それらの多くは短期海外留学や大学留学では経験することのない高校長期海外留学特有のデメリットであることが伺える。

**質問 8：デメリットがあっても高校長期海外留学をする価値として何かあると思いますか。**

(12名の回答から出た意見をまとめて表示する。)

**回答内容：**

- ・同世代と比べて高校海外留学の1年を経験していることで、忍耐強さやコミュニケーション能力、自発的な面で成長がみられた。
- ・現地でしか作れないコネクションや考え方を手に入れることができる。
- ・制度的な面で日本の大学進学の際に推薦をもらえたり、AO入試で受験できたりする場合もあり、自分の希望する進学先に進学しやすい。
- ・現地の高校にしかない行事であるホームカミングやプロムを体験することができる。
- ・大学留学とは異なり、ホストファミリーの家に泊まって生活するなど、現地に入り込む感じの留学ができる。
- ・挫折しても長期間は現地に滞在しないといけいないから、試行錯誤しながらも問題解決を行う力がつく。
- ・短期海外留学や大学留学と比較して現地のコミュニティに溶け込む高校長期海外留学では、語学力も飛躍的に向上する。
- ・常識や教養がある程度身につけている大学生と比較して、考え方も耳も柔軟な高校生の時に留学することで得られるものが多く、人生の幅をより広げられる。
- ・程よく柔軟に人に合わせて生きることの大切さを早く学べた。
- ・長期海外留学だからこそスランプを何度も乗り越える機会があり、自信がつく。
- ・現地の人が高校生として扱ってくれるから、より安全な環境で人と関わりながら現地の生活に溶け込める。
- ・大学留学と異なり、高校長期海外留学は田舎に送られることが多いからこそ、アジア人があまりいない環境で1人現地の生活に溶け込んでいくのはいい経験。
- ・長期間だからこそ、異文化や異なる物事を日常として捉えることができる。
- ・1つの物事に対して、自然に多面的にみる習慣が身につく。

- ・どんな新しい環境でもすぐに適応できるようになる。
- ・辛い経験をしたからこそ、ある程度のことが耐えられるようになる。
- ・違いを容易に受容できるようになる。
- ・自分の中で思考したことを実行する時間がある。
- ・自分の行動にオーナーシップや責任をもつなど、自立するプロセスがある。
- ・自分の意見や考えを自己主張できるようになる。
- ・高校長期海外留学は、留学後に、これから留学する高校生のサポートをする機会などもあり、留学経験自体以外にも学べることが多くあった。
- ・大学留学の講義形式の授業と異なり、現地の高校の授業は少人数制で円を囲んでのディスカッション形式だったため、言語に苦手意識がある中でも積極的になれる。

デメリットを踏まえた上での高校長期海外留学の価値として回答内容からは、忍耐強さやコミュニケーション能力・語学力において成長がある点や、現地にしかない文化を体験できる点、また、多面的にみる習慣が身に付く点などが挙げられている。一見、ここで挙げられた高校長期海外留学の価値は、「高校留学の価値」と「長期海外留学の価値」の2つに分けられるように思える。「考え方も耳も柔軟な高校生だからこそ留学で得るものが大きい」という意見や、「長期海外留学だからこそ問題解決や思考を実行に移すプロセスから成長できる」という意見はまさにそうだ。しかしながら、これらは全て、ここで何人かが挙げてくれたキーワードである「現地コミュニティ」に溶け込む過程があったからこそその成果であり、そう考えると、現地コミュニティに溶け込むという体験を可能にするのが高校長期海外留学の本質的な価値とみることができる。大学留学と異なり、高校長期海外留学は田舎に送られることが多いとの意見もあったが、高校長期海外留学の目的は、大学留学や短期海外留学のように研究や語学習得、また異文化をただ単に知ることではなく、異文化と出会い、葛藤しながらも違い受け入れ、受け入れられることで現地コミュニティに溶け込み、現地のコミュニティの一員として生活すること、またそうした経験を通して人として成長することであると筆者は考えている。実際に高校生の長期海外留学プログラムを運営する YFU は高校長期海外留学プログラムの特徴について、『異文化の家族と生活することで、異なる価値観への理解が深まる』、『異なる生活様式・習慣の中で、人格形成と人間的成長が促進される』、『自国の文化や家族を改めて見つめ直す機会が与えられる』、『コミュニケーション能力と国際感覚が身に付く』<sup>(16)</sup> としており、また同様のプログラムを運営する AFS という組織は自組織の活動を、「多様な文化・価値観の人々と『共に生きることを学ぶ』活動<sup>(17)</sup>」とし

ている。このように未成年者を対象にし、その地に暮らす人々との共生を学ぶことを目的とする高校長期海外留学の場合、留学生のほとんどが外国の田舎に住むホストファミリーの元で暮らしを共にすることが多い。同じ出身国の人や同じ言語を話す人が全くいない環境の中で、1人、言語や文化の壁にぶつかりながらも現地で生きるために、ホストファミリーや学校・地域で出会う人とコミュニケーションを重ねていくこととなる。異なる文化背景、言語を有する者として現地で長期間暮らしていくためには、自身の許容範囲も広げながら物事に柔軟に対応する必要も生まれてくるだろう。そうして自分を変えながら現地の人々と共生しようと努力する過程で、12名が挙げてくれたように、語学力や問題解決能力、現地コミュニティに入り込む・溶け込む経験、人生の幅をより広げられるような学びなどを手に行うことができるのであり、それらが協定先の大学へ留学することの多い大学留学や、期間的に現地の人々と深い繋がりを築くことが難しい短期海外留学などと比較した時に、「高校長期海外留学の価値」として見えてくるのだとインタビュー結果から捉えることができる。

**質問9：今後高校長期海外留学をより一層推進するべきだと思いますか。また推進に当たって考慮すべきことが何かあれば教えてください。**

(12名の回答から出た意見をまとめて表示する。)

**回答内容：**

- ・帰国子女と異なり、高校長期海外留学経験者は言語面、精神面で大きな成長を遂げているため、高校長期海外留学経験者を大学入試やAO入試で受け入れる枠が増えれば高校長期海外留学も行きたい人が増えるのではないかと。
- ・金銭的に諦める高校生もいるため、金銭面的援助が国または自治体よりあるといいと思う。
- ・グローバル人材や英語ができる人材を増やしたいのであれば長期海外留学を増やすべき。
- ・短期海外留学では手の届かない成長を成し遂げられるのが長期海外留学だから、推進されるべき。
- ・行きたくない人は行かなくてもいいが、大学留学とはまた違う体験ができる高校長期海外留学の推進に向けて奨学金の充実や募集をかけることは大切。
- ・短期海外留学を押しつけてまで長期海外留学を推進することは違うが、挑戦したい子がいるのであれば、後押しできる環境を整備することは大切。
- ・短期海外留学の経験を深められるのが長期海外留学であるから、国に予算があるのであれば



ば進めていくべき。

- ・推進に当たって留学前研修の充実や現地でのサポート体制の強化は必要。
- ・目的のある留学に対しては国や自治体から資金面でのサポートがあるべき。
- ・長期海外留学の経験によって人生設計が狂った人も一定数いるとは思いうから、自分の経験がよかったからといって推進するべきだとは言えない。
- ・必要な情報が必要とする人のもとに辿りつけるようにする環境整備は必要。
- ・とくに、国公立の学校においては、知らないから行けないという状況を打開するべき。

質問9に対する回答結果として、12名中11名が推進するべきとし、その理由として、短期海外留学や大学留学とは異なる体験・成長ができるという意見や、国が進めるグローバル人材の育成に繋がるという意見が挙げられた。また、現在の高校長期海外留学の推進状況の問題点については、とくに国公立の高校で高校長期海外留学という選択が高校生の間で認知されておらず、知らないから行けないという状況がることや、高校長期海外留学をしたい人が必要な情報になかなか辿りつけない状況があるとの意見が挙げられた。今回インタビューした12名の内訳として、9名が留学団体を通しての留学、2名が自治体の行う留学プログラムを通しての留学、そして1名が個人的に留学エージェントに申請しての留学という形をとっているが、12名全員が留学に辿り着いたきっかけとして、海外渡航願望や英語力向上願望、また同級生と異なることがしたいとの願望を含む、自発的な興味・関心があったからと述べている。これを踏まえた上で、問題点として挙げられた事項を確認すると、自発的な興味・関心があれば高校長期海外留学という選択肢を選ぶ余地が生まれるが、興味・関心がもともとない者は高校長期海外留学の存在自体を知らないまま、選択肢としても選ぶ余地がないというのが現状であると考えることができる。インタビューでは、高校長期海外留学という選択肢をもともと関心がある者にも、またその存在を知ることができたならば興味・関心を抱こう者にも身近にするための打開策として、国または自治体からの資金面での支援の充実や、高校長期海外留学の宣伝・募集の充実、また必要とする情報に辿りつくための環境整備や留学先でのサポート体制の強化などを、国・自治体・学校・留学団体などのさまざまなアクターが連携して行うことの必要性が多く挙げられた。一方で、高校長期海外留学の推進に関しては、短期海外留学をおしのけてまで長期海外留学を推進することには反対との意見や、高校長期海外留学はデメリットも多く、留学経験自体が大きな挫折になるケースや、高校長期海外留学をして人生設計が狂ったというケースもあるはずだからむやみに推進することには納得できないという意見、高校長期海外留学を推進するにはその価値

と共に今回のインタビューで明らかとなったデメリットについても伝えることが必要であるとの意見が見られた。

#### 4. 高校長期海外留学がキャリア形成にもたらす影響について

インタビュー調査からみえてきたキャリア形成上の影響としては3点の発見があった。1点目は、留学以前より国際交流や他言語の習得に興味があり、且つ将来の進路希望先分野や職業がある場合には、高校長期海外留学経験は進路希望先への進路実現をしやすいことに繋がるということである。これにはグローバル化に対応するために大学などの後期高等教育機関が、英語力などの語学力を有する人材を積極的にAO入試や推薦入試を用いて確保しようとする背景が関係しており、高校時の長期間の留学で語学力を高め、異文化での経験をもつ高校生は、語学力とその異文化経験自体が高く評価されることから進路実現をしやすくなるという傾向になると思われる。2点目に、留学以前より国際交流や他言語の習得に興味があり、且つ将来の進路希望先や職業が未だ不明確な場合は、高校長期海外留学という非日常の経験を積む期間も進路について模索するため、留学経験が直接的に進路希望先の分野決定に影響を及ぼすことがあり、且つ留学で身に付けた語学力を駆使してその進路希望を実現しやすくなるということだ。この背景には、日本の学校環境と海外の学校環境が大きく異なることが影響しており、日本の学校生活の中で経験できないことを海外の学校生活を通して経験することが多い高校長期海外留学は、将来のビジョンが明確でない高校生にとっては新たな可能性や興味・関心のもてる分野を発見できる機会になると思われる。よって、高校長期海外留学で身に付ける語学力や日本の高校生活では経験できない経験が、進路選択の上で少なからず影響を及ぼし、また進路実現面では大きな影響を与える傾向があると捉えることができる。3点目に、高校長期海外留学経験者はその後のキャリアを、グローバル人材として語学力や異文化経験が活かせる形で形成する傾向にあるということだ。これには、もともと国際交流や他言語の習得に興味・関心のある者が高校長期海外留学を選択しているからそうした結果になるとの意見もあると思うが、インタビューでは、高校長期海外留学を通して語学力が向上したからこそ身に着けた語学力を活かしたいと思うようになったとの意見や、高校長期留学を経験したからこそ語学力を使って何ができるかに対して検討がつくようになったとの意見もみられた。このことから、国際交流やグローバル人材としてキャリア形成を行うことに興味・関心をもっているだけではそれらに関わる進路希望を実現することが難しいなかで、高校長期海外留学で身に着けた語学力があるからこそ、グローバル人材としてのキャリア形成が可能になると捉えることができる。

また本研究では、主軸で調査を試みた「高校海外長期海外留学がキャリア形成に与える影響」の他に、高校長期海外留学のデメリットとその本質的な価値、そして今後の推進についてもインタビュー調査を試みた。その結果、まず、デメリットとしては「大学受験」、「留年」、「ホストファミリー」、「友人関係・学校生活」、「金銭面」、「精神面」「その他」の大きく 7 つのカテゴリーが挙げられ、大学受験への準備不足を含めた進学面での懸念や、日本の高校での友人関係や思い出作りの面での懸念、また金銭感覚がなくストレス対処経験も浅い中での留学への懸念や、未成年者だからこそ生活を共にすることとなるホストファミリーへの懸念など、高校時の長期海外留学だからこそそのデメリットが多く存在することが明らかとなった。また、高校長期海外留学の本質的な価値としては、高校長期海外留学が、日本人や日本語を話す人がいない、または少ない海外の地域においてホストファミリーと長期に渡って生活し、現地の高校に通学するなど、現地のコミュニティに溶け込むような体験ができるという点が挙げられた。現地のコミュニティに溶け込まないと孤立してしまうような環境に置かれるからこそ、自らコミュニケーションを図ったり、問題解決を行ったりする必要性が生まれ、その過程を通して語学力やコミュニケーションスキル、問題解決能力や柔軟性が向上するなど、短期海外留学や大学留学とは異なる生活環境だからこそその習得が多くあることが高校長期海外留学の価値であると理解することができる。それに加えて、留学中の挫折経験とそれを乗り越えた経験についてのインタビューからは、高校長期海外留学の場合、留学先で挫折したとしてもそれを乗り越えて前に進むだけの期間が十分にあるとの指摘もあった。期間が短いと、コミュニティに溶け込むことも、問題解決能力を始めとするさまざまな力を身に着けることも難しい。よって、留学期間が十分に確保されていることも高校長期海外留学の本質的な価値であると捉えることができる。最後に、今後、高校長期海外留学を推進すべきかどうかという点からは、高校長期海外留学の存在自体を知らない高校生が多いとの問題点が指摘され、国際交流や言語習得の興味・関心の有無に関わらず、高校生がその存在を知ることができるような宣伝・広告をする必要性や、国と地方自治体、学校などが協力して資金面や進学面での支援を強化することの必要性があることが分かった。またその一方で、高校長期海外留学ならではのデメリットもしっかりと伝えていく必要性があることも理解できた。つまり、高校長期海外留学は短期海外留学や大学留学と比較して、現地のコミュニティに溶け込むための環境が整っており、現地コミュニティとの関わりから習得することも多いため、国が進めるグローバル人材育成の手段として適しているものの、高校生という時期の長期海外留学だからこそそのデメリットも多くあるため、今後の推進の際には高校長期海外留学の本質的な価値とともにそのデメリットも含めて広範囲に宣伝

していくことが大切であると捉えることができる。

## 第6章 結論

### 1. 本論文の結論

本研究の目的は、「高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響」、「高校長期海外留学のデメリットとそれを踏まえた上での本質的な価値」、また「今後高校長期海外留学を推進する際の留意点」について明らかにすることであった。

本研究では、「高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響」として、明らかになったこととして3点ある。1点目に留学以前より国際交流や他言語の習得に興味があり、且つ将来の進路希望先分野や職業がある場合には、高校長期海外留学経験は進路希望先への進路実現をしやすくするという点、2点目に留学以前より国際交流や他言語の習得に興味があり、且つ将来の進路希望先や職業が未だ不明確な場合は、留学経験が直接進路希望先の分野決定に影響を及ぼす場合があり、且つ希望進路先への進路実現をしやすくということ、また3点目に高校長期海外留学経験者はその後のキャリアを語学力や異文化経験が活かせる形で形成する傾向にあることである。また、「高校長期海外留学のデメリットとそれを踏まえた上での本質的な価値」に関しては、「大学受験」、「留年」、「ホストファミリー」、「友人関係・学校生活」、「金銭面」、「精神面」「その他」などの7カテゴリーの存在がデメリットとして明らかとなった。さらに、高校長期海外留学の本質的な価値としては、高校長期海外留学が現地のコミュニティに溶け込む体験を可能にするものであるという点と、そうした体験の中で挫折したとしてもそれを乗り越えて前に進むだけの期間を十分に確保できているという点の2点が得られた。最後に、「今後高校長期海外留学を推進する際の留意点」としては主に3点の気づきが得られた。1点目に、国際交流や言語習得の興味・関心の有無に関わらず高校生がその存在を知ることができるような宣伝・広告をすること、2点目に、国と地方自治体、学校などが協力して資金面や進学面での支援を強化すること、また3点目に、高校長期海外留学ならではのデメリットもしっかりと伝えていくことである。

日本国内において官民一体となって行われるグローバル人材育成の推進によって、日本の若者の中で「海外留学」という選択肢は広まりつつある。期間や内容によってさまざまな留学形態が存在する中で、今後日本の若者には、高校長期海外留学という選択肢も視野に入れてグローバル人材としてのキャリア形成がしやすくなるようにと、本稿では高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響やその価値などについて高校長期海外留学経験者12名へのインタビュー調査を通して明らかにしようと試みた。本研究を通して明らかとな

ったことを踏まえた上で、高校長期海外留学という選択肢が若者の中で今後より一層検討されること、また今後の日本のグローバル人材育成の大きな手段として選択し続けられることが期待される。

## 2. 問題点と今後の課題

本研究の問題点および課題は、以下の2点である。

第1に、インタビュー対象者に、「高校長期海外留学に臨んだものの途中で中止して帰国した者」を入れていないことである。本研究第5章のインタビューにおいて、インタビュー対象者を選ぶ際に一人一人の留学経験の内容をあらかじめ把握しなかった。そのため、高校長期海外留学期間中に挫折して途中帰国した者の視点から、高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響や高校長期海外留学のデメリット、その本質的な価値などを検証することができなかった。今後は、高校長期海外留学経験者の留学経験を把握した上で意図的に途中帰国した者を調査対象者として選ぶことが必要である。

第2に、本研究のインタビュー対象者の中に、「海外留学の前後で進路希望先分野や職種に変化があった者」が十分に含まれていないことである。第1の問題点と同様に、本研究第5章のインタビューにおいて、インタビュー対象者を選ぶ際に一人一人の留学経験の内容をあらかじめ把握しなかった。そのため、海外留学の前後で進路希望先分野や職種に変化があった者の視点から、高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響について、その傾向をデータとして明らかにすることができなかった。今後は、高校長期海外留学経験者が海外留学以前に抱いていた進路希望やキャリア形成と、海外留学以後に抱いた進路希望やキャリア形成の差異を明らかにした上で、意図的にそこに差異のある者を調査対象者として選択し、高校長期海外留学がキャリア形成に与える影響について結論を導き出すことが必要である。

## 参考文献

石盛真徳、西尾建

- 2021 「高校生の短期海外留学プログラム参加経験がキャリア形成に与える影響」『追手門経営論集』26(2):27-37。

大前佑斗、糟谷理恵子、吉野華恵、三井貴子、高橋弘毅

- 2017 「留学経験が自発的活動・キャリア形成に与える影響の検討」『日本教育工学会論文誌』40:21-24。

岡村郁子、額賀美紗子

- 2018 「海外経験がキャリア形成にもたらすインパクト—大学短期海外留学経験者と帰国生の語りから—」『異文化間教育』48:35-52。

学校法人河合塾

- 2017 「大学入試における英語の4技能評価の影響」『変わる高校教育』16:41-43。

小林明

- 2016 「留学体験のインパクトと成果-留学経験者と留学非経験者の比較調査から—」『留学交流』65。

小林明

- 2018 「留学生の定義に関する比較研究」『年間を通した外国人学生受入れの実態調査』pp.111-123。

産学連携によるグローバル人材育成推進会議

2011 「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/06/01/1301460\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/06/01/1301460_1.pdf) (2022/10/6 参照)。

新見有紀子

2015 「短期海外留学経験が就職・進路に関する意識に与える影響について：帰国後インタビューからの考察」『留学生交流・指導研究』18:31-44。

星野昌成

2018 「日本人大学生の海外留学の変容・名古屋大学の ASEAN 海外留学を事例に一」『異文化間教育』48:53-71。

文部科学省

2012 「グローバル人材の育成について(資料 2)」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2012/02/14/1316067\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/__icsFiles/afieldfile/2012/02/14/1316067_01.pdf) (2022/10/9 参照)。

文部科学省

2018 「総則編」『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説』 pp.1-2。

文部科学省

2018 「第 3 期教育振興基本計画」 [https://www.mext.go.jp/content/1406127\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf) (2022/10/9 参照)。



文部科学省

2022 「『外国人留学生在籍状況調査』及び『日本人の海外留学者数』等について」

[https://www.mext.go.jp/content/20220603-mxt\\_gakushi02-100001342\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220603-mxt_gakushi02-100001342_2.pdf)

(2022/10/10 参照)。

横田雅弘

2016 「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査報告書」

(2013~2015 年度科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号 25245078)。

[http://recsie.or.jp/wp-content/uploads/2016/04/Survey-on-study-abroad-](http://recsie.or.jp/wp-content/uploads/2016/04/Survey-on-study-abroad-impact_final20170529)

[impact\\_final20170529](http://recsie.or.jp/wp-content/uploads/2016/04/Survey-on-study-abroad-impact_final20170529) (2022/10/14 参照)。

## 英文要約

### “The Impact of Long-term High School Study Abroad Experiences on Career Development”

The purpose of this graduation thesis is to investigate the impact of long-term high school study abroad experiences on career development. Data for this thesis were obtained from the interviews, which were conducted with twelve people who have the experience of long-term high school study abroad and who graduated from high school more than two years ago. Each interviewer was asked about the study abroad experience which includes the reason they had done study abroad, their career path after high school, whether they acknowledge the impact of study abroad experience on further carrier development, the difference of short-term and long-term study abroad experience, whether there were any frustrations during study abroad, whether there were any disadvantages of participating in long-term high school study abroad programs, the value of participating in the program even with the disadvantages and whether long-term high school study abroad programs should be enhanced in the future.

The interview results show three important points. First, if the students had an interest in interactions with people from abroad and language learning prior to their study abroad experience, and if they had a desired career field or occupation in the future, their study abroad experiences facilitated the realization of their desired career field. This is because universities and other higher education institutions are actively trying to secure students with English and other language skills through AO entrance examinations and recommendation entrance examinations to respond to globalization. Second, if a student has been interested in interactions with people from abroad and language learning since before studying abroad and is still uncertain about his or her future career path, the study abroad experience could directly influence his or her career path and make it easier for him or her to achieve the desired career path. This is because school environments in Japan and abroad are very different, and high school students who do not have a clear vision of their future may find that long-term study abroad provides an opportunity to discover new possibilities and fields of interest and fields of interest. Third, students who have studied abroad for an extended period in high school tend to make the most

of their language skills and cross-cultural experiences in their subsequent careers. Regarding the "disadvantages of long-term study abroad in high school and its intrinsic value," seven categories were identified as disadvantages, including "university entrance examinations," "staying abroad," "host families," "friendships and school life," "financial aspects," "mental aspects," and "others". Furthermore, two points were obtained as essential values of long-term study abroad programs for high school students: First, the long-term high school study abroad programs enable students to experience integration into the local community. Second, even if there are setbacks in such experiences, the program provides enough time to overcome them and move forward. Finally, three points were raised as "points to keep in mind when promoting long-term study abroad programs for high school students": first, publicity and advertising should be done so that high school students, regardless of their interest in interactions with people from abroad or language acquisition, can learn about the program; second, the national government, local governments, and schools should work together to strengthen financial and academic support for the program; and third, the disadvantages of long-term study abroad for high school students should be communicated.

The option of studying abroad is becoming increasingly popular among Japanese youth as a result of the public and private sectors' concerted efforts to promote global human resource development in Japan. While there is a variety of study abroad options, depending on the duration and content of the study, this report will discuss the impact and value of long-term study abroad on the career development of Japanese high school students. This paper attempts to clarify the impact and value of high school study abroad on career development through interviews with twelve students who had studied abroad for extended periods. Based on the findings of this study, it is hoped that the option of long-term study abroad will be considered by young people and that it will continue to be a major means of global human resource development in Japan in the future

## 謝辞

本論文の作成にあたり、終始適切な助言をして下さり、長期に渡り丁寧に指導して下さいました関根久雄先生に感謝の意を表します。

関根ゼミの同期・後輩の皆様には、本論文を作成するにあたってインタビュー調査の質問事項や実施方法において適切な指摘を頂いたり、また日頃より常に刺激的な議論の機会を頂いたり、多くの刺激や習得を頂きました。誠にありがとうございました。

そして、本研究の趣旨を理解した上で快く協力して頂いた、調査対象者の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 注

- 
- (1)内閣府のウェブサイト([https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/))より(2022/10/7 参照)。
  - (2)文部科学省のウェブサイト  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/kokusai/004/gijiroku/attach/1247196.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/004/gijiroku/attach/1247196.htm))より(2022/6/4 参照)。
  - (3)文部科学省のウェブサイト([https://www.mext.go.jp/content/1421692\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1421692_1.pdf))より  
(2022/10/7 参照)。
  - (4)文部科学省のウェブサイト  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/koukousei/20220526-mxt\\_kouhou02-1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/20220526-mxt_kouhou02-1.pdf))より(2022/10/7 参照)。
  - (5)文部科学省のウェブサイト  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323960.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323960.htm))より  
(2022/10/3 参照)。
  - (6)文部科学省のウェブサイト  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323946.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323946.htm))より  
(2022/10/5 参照)。
  - (7)独立行政法人日本学生支援機構のウェブサイト  
([https://www.studyinjapan.go.jp/ja/\\_mt/2021/03/date2019n.pdf](https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2021/03/date2019n.pdf))より(2022/10/5 参照)。
  - (8)トビタテ！留学 JAPAN のウェブサイト(<https://tobitate.mext.go.jp/univ/planguide/>)より  
(2022/10/12 参照)。
  - (9)文部科学省のウェブサイト  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1249702.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1249702.htm))より  
(2022/10/12 参照)。
  - (10)トビタテ！留学 JAPAN のウェブサイト(<https://tobitate.mext.go.jp/about/merit/>)より  
(2022/11/19 参照)。
  - (11)トビタテ！留学 JAPAN のウェブサイト(<https://tobitate.mext.go.jp/about/merit/>)より  
(2022/11/19 参照)。
  - (12)外務省のウェブサイト  
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/hito/ryu/ryuugakuannai/index.html>)より  
(2022/10/08 参照)。
  - (13)トビタテ！留学 JAPAN のウェブサイト(<https://tobitate.mext.go.jp/about/merit/>)より  
(2022/11/24 参照)。
  - (14)トビタテ！留学 JAPAN のウェブサイト(<https://tobitate.mext.go.jp/about/merit/>)より  
(2022/11/24 参照)。
  - (15)トビタテ！留学 JAPAN のウェブサイト(<https://tobitate.mext.go.jp/about/case/>)より  
(2022/11/19 参照)。
  - (16)公益財団法人 YFU 日本国際交流財団のウェブサイト(<https://yfu.or.jp/>)より  
(2022/12/20 参照)。
  - (17)公益財団法人 AFS 日本協会のウェブサイト(<https://www.afs.or.jp/>)より(2022/12/20 参照)。